府立園芸高等学校
校長　真鍋　政明

平成 31 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

農業高校としての機能を最大限に活かし、社会や産業の発展に貢献できる人材を育成することにより、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。
１　基礎的・基本的な知識・技能の定着と、これらを活用して主体的に課題を解決するための思考力、判断力、表現力、創造力などを身に付けさせる。
２　生命と人権、自然と環境を大切にする態度を育むとともに、自らを律することができる規律・規範を身に付けさせ、心身の健やかな成長を支援する。
３　豊かな勤労観や職業観を身に付けさせ、将来の夢や目標を形作り、進路を自ら選択・決定する力やチャレンジ精神を育む。
４　地域や産業界等との連携を密にし、様々な社会資源を活用した教育活動を展開し、府立高校あるいは農業高校としてのニーズと期待に応える。

２　中期的目標

１　確かな学力の育成
（１）教科等で身に付けさせるべき基礎学力について研究し、それらを定着させるための組織的な指導を行う。
ア　１年生の国語、数学、英語において、習熟度別少人数授業を導入し、個々の生徒に応じた、きめ細かな指導により基礎学力を向上させる。
＊授業アンケート項目８「授業内容に興味・関心をもつことができた」(平成 30 年度 3.17)を毎年 0.03 引き上げ、2021 年度には 3.26 にする。
イ　アクティブラーニング、宿題の活用、放課後等の補習・講習などにより、授業時間以外での学習を増加さ、生徒が主体的に学習に取り組むための環境づくりを進める。
＊授業アンケート項目１「必要な学習（課題、宿題等）ができている」(平成 30 年度 3.33)を毎年 0.03 引き上げ、2021 年度には 3.42 にする。
ウ　基礎学力委員会を設置し、「高校生のための学びの基礎診断」の導入と効果的な活用について研究する。
＊基礎学力の定着に向けたＰＤＣＡサイクルを構築する。
（２）専門教科において課題解決能力の育成を図り、実践的で高度な専門技術、知識習得へつなげていく。
ア　各科、各コースで育むべき力を明確にし、その育成のために必要なカリキュラム、授業方法、普通教科や他の教科との連携方法について研究する。
＊授業アンケート項目９「知識や技能が身についたと感じている」(平成 30 年度 3.21)を毎年 0.3 引き上げ、2021 年度には 3.30 にする。
イ　課題研究や農業クラブ活動での研究プロジェクトを通じ、課題解決能力につながる思考力、判断力、表現力、創造力を育成させる。
＊保護者、地域関係者等を対象とした研究発表会を開催する。農業クラブ大阪府研究発表会で最優秀賞を獲得する。
２　安全安心で魅力ある学校づくり
（１）生徒に自ら律することのできる規律・規範意識を身に付けさせる。
ア　教職員全員が一丸となり、欠席、遅刻、頭髪、ピアス、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナーなどに対する指導を徹底する。
＊遅刻による早朝指導対象生徒数(平成 30 年度 108 名)を毎年 1 割以上減らし、2021 年度には半減させる。
イ　災害時の生徒の安全確認を迅速に行うとともに、帰宅困難となり一定期間待機せざるを得ない生徒の安全を確保する。
＊学校ウエブページに開設した災害時における生徒の安否状況を確認するための緊急連絡フォームを実用化する。生徒備蓄を整備する。

（２）　職員のカウンセリングスキルの向上、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を確立する。
ア　職員研修の充実、教育相談体制、いじめ防止体制をさらに充実する。
＊生徒向け学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」(平成 30 年度肯定率 70%)を毎年３%以上引き上げ、2021 年度には 79%にする。
イ　中途退学・不登校の未然防止のため、関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた指導を推進する。
＊年度末の進級率・卒業率（平成 30 年度 95%）を毎年１%以上引き上げ、2021 年度に 98%とし、それを維持する。
（３）修学上の支援を要する生徒に対する支援体制の確立
ア　生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図る。
＊ともに学びともに育つという理念にもとづき、自立支援コースを含めた学校全体の支援教育体制を完成させる。
（４）生徒に豊かな心育むための教職員の意識・意欲の醸成と学校の魅力の発信
ア　教職員の服務規律等についての意識向上を徹底するとともに、校務についての組織的、効果的、効率的な遂行を図る。
＊教職員の問題事象をなくすとともに、働き方改革による長時間勤務の是正を進める。
イ　府民、地域、中学校等へ学校情報を迅速かつ魅力的に発信する。
＊学校説明会や体験入学会の充実、広報資料作成、学校ウエブページ更新、報道提供を推進する。
３　夢と志を持つ生徒の育成
（１）専門知識・技術を活かした、キャリア形成、進路指導、進路実現をめざす。
ア　就職希望者については、農業現場を含めた企業実習や見学に参加させ、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる。
＊学校紹介による就職率 100%を維持する。農業関連分野への就職を促す。
イ　進学希望者については、進路指導部が主体的に学年、学科、教科と連携し、農業クラブ活動や講習会への参加、小論文指導など、個に応じた進学指導体制を確立する。
*大学進学に対応した教育課程を編成する。国公立大学や難関私立大学への進学者 10 名以上を目標とする。
ウ　各学科の学習内容を深めるとともに、キャリアップを図るため、資格取得等を積極的に推奨する。
＊アグリマイスター顕彰制度認定者（平成 30 年度７名）を毎年２名ずつ増やし、2021 年度には 13 名にする。
（２）特別活動や生徒会活動、農業クラブ活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
ア　行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する
＊生徒向け学校教育自己診断項目「高校生活に自分なりの目標を持っている」(平成 30 年度肯定率 70%)を毎年３%以上引き上げ、2021 年度には 79%にする。
イ　農業クラブを活性化させることにより、達成感を多く味あわせ、科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。
＊農業クラブ加入率（平成 30 年度 47.9%）を 2021 年度に 60%とし、それを維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平成 32 年 1 月実施分］	学校運営協議会からの意見

３　本年度の取組内容及び自己評価

府立園芸高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1　確かな学力の育成	（1） 教科等で身に付けさせるべき基礎学力について研究し、それらを定着させるための組織的な指導を行う。 （2） 専門教科において課題解決能力の育成を図り、実践的で高度な専門技術、知識習得へつなげていく。	（1） ア　・1 年生の国語、数学、英語において、習熟度別少人数授業を導入する。 ・付けさせるべき学力と付けさせるための方法について研究する。 イ　・アクティブラーニング、宿題の活用、放課後等の補習・講習などにより、授業時間以外での学習を増加させる。 ・学期ごとに生徒の学習状況調査を実施する。 ウ　・基礎学力委員会を設置する。 ・「高校生のための学びの基礎診断」を導入し、効果的な活用について研究する。 （2） ア　・各科、各コースで育むべき力を明確にし、その育成のために必要なカリキュラム、授業方法、普通教科や他の教科との連携方法について研究する イ　・課題研究や農業クラブ活動での研究プロジェクトを通じ、課題解決能力につながる思考力、判断力、表現力、創造力を育成させる。	（1） ア　・授業アンケート項目８「授業内容に興味・関心をもつことができた」（平成 30 年度 3.17）を 3.20 にする。 イ　・授業アンケート項目１「必要な学習（課題、宿題等）ができている」（平成 30 年度 3.33）を 3.36 にする。 ・生徒の学習状況調査を実施する。 ウ　・基礎学力委員会を設置する。 ・基礎学力の定着に向けたＰＤＣＡサイクルを構築する。 （2） ア　・授業アンケート項目９「知識や技能が身についたと感じている」（平成 30 年度 3.21）を 3.24 にする。 イ　・保護者、地域関係者等を対象とした研究発表会を開催する。 ・農業クラブ大阪府研究発表会で最優秀賞を獲得する。	
2　安全安心で魅力ある学校づくり	（1） 生徒に自ら律することのできる規律・規範意識を身に付けさせる。 （2） 職員のカウンセリングスキルの向上、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導の確立 （3） 修学上の支援を要する生徒に対する支援体制の確立 （4） 生徒に豊かな心育むための教職員の意識・意欲の醸成	（1） ア　・教職員全員が一丸となり、欠席、遅刻、頭髪、ピアス、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナーなどに対する指導を徹底する。 ・災害時における生徒の安否状況を確認するとともに、生徒備蓄を整備する。 （2） ア　・職員研修の充実、教育相談体制、いじめ防止体制のさらなる充実 イ　・中途退学・不登校の未然防止のため、関係機関との連携やスクールカウンセラー等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた教育活動を推進する。 （3） ア　・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援の充実を図る。 （4） ア　・教職員の服務規律等についての意識向上を徹底するとともに、効果的・効率的に職務を遂行する。 イ　・府民、地域、中学校等へ学校情報を迅速かつ魅力的に発信する。	（1） ア　・遅刻による早朝指導対象生徒数（平成 30 年度 108 名）を 1 割以上減らす。 ・学校ウエブページの緊急連絡フォームを実用化する。 ・生徒備蓄を整備する。 （2） ア　・生徒向け学校教育自己診断項目「先生は生徒のことを一生懸命考えてくれる」（平成 30 年度肯定率 70%）を 73%にする。 イ　・年度末の進級率・卒業率（平成 30 年度 95%）を 96%にする。 （3） ア　・自立支援コースを含めた学校全体の支援教育体制を構築する。 （4） ア　・教職員の問題事象をゼロにする。 ・教員の時間外労働時間（80 時間超え）を２割減らす。 ・行政職員の時間外労働時間数総数（前年度）を維持する。 イ　・各科の教育内容等についての十分な理解を図るため、学校説明会を改善し、体験入学会の回数を増やす。 ・学校説明会等の参加者を 10%増加させる。（平成 30 年度 560 人） ・学校案内を魅力あるものへと刷新する。	

府立園芸高等学校

３　夢と志を持つ生徒の育成	（１） 専門知識・技術を活かした、キャリア形成、進路指導、進路実現をめざす。 （２） 特別活動や生徒会活動、農業クラブ活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。	（１） ア　・就職希望者については、農業現場を含めた企業実習や見学に参加させ、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる。 イ　・進学希望者については、進路指導部が主体的に学年、学科、教科と連携し、農業クラブ活動や講習会への参加、小論文指導など、個に応じた進学指導体制を確立する。 ウ　・各学科の学習を深めるとともに、キャリアップを図るため、資格取得等を積極的に推奨する。 （２） ア　・行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する イ・農業クラブを活性化させることにより、達成感を多く味わせ、科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。	（１） ア　・学校紹介による就職率 100%を維持する。農業専門学科に関連する産業分野への就職者を増加させる。 イ　・学科間を超えた進学指導体制を構築する。 ・国公立大学や難関私立大学への合格者８名（平成 30 年度６名）以上とする。 ウ　・アグリマイスター顕彰制度認定者（平成 30 年度７名）を９名にする。 （２） ア　・生徒向け学校教育自己診断項目「高校生活に自分なりの目標を持っている」(平成 30 年度肯定率 70%)を 73%にする。 イ　・農業クラブ加入率（平成 30 年度 47.9%）を 52%とする。 ウ　・実習の成果物を販売につなげ、校内販売所での生徒による販売機会を増やすとともに、販売額を５%増やす	